

学校教育方針

京都市立松陽小学校

学校教育目標

自分の夢に挑戦し、仲間と共に高め合い、
よりよく生きようとする子ども

目指す子ども像

自分を大切にする子

～自分の夢を大切にし、向上心をもって自ら学んだり、
希望や目標に向かって自分をよりよく生かしたりする力を育てる～

人を大切にする子

～学級や学校の仲間や地域の人たちとの協働活動を通して、
人を思いやり温かく接しようとする心を育てる～

生命を大切にする子

～人や動植物、自然環境とかかわる体験活動を通して、
かけがえのない自他の生命を大切にしようとする心を育てる～

ものを大切にする子

～学校生活の中でみんなが使う物や場所を意識できるようにし、
ものを大切にしようとする心を育てる～

きまりや約束を大切にする子

～学校や学級のよりよい生活づくりのためのきまりや約束を守る活動を通して、
自ら判断し正しく行動する力を育てる～

1 松陽教育の中核に据える5つの教育活動

- ① 児童の学びの力を高める授業づくり，家庭学習づくりの推進
- ② 一人一人を徹底的に大切にされる存在に育てる人権教育の推進
- ③ 成長を促す指導，予防的な指導，課題解決的な指導の充実を図る生徒指導の推進
- ④ 自主的・実践的な態度と自己を生かす能力を育てる特別活動の推進
- ⑤ 児童の実態に応じて内容の重点化を図った道徳教育の推進

2 松陽教育で大切にしたい5つの視点

- ① N(ねらい) T(徹底) H(振り返り) K(行動化) のサイクルにあてはめて育てる。
- ② 教職員と児童及び児童相互の人間的な触れ合いを基盤とする活動を通して育てる。
- ③ 児童の言語力を高める教育環境づくりとそれを生かした取組を工夫して育てる。
- ④ 協働の活動を重視した体験活動の経験を生かし、「なすことによって学ぶ」活動を通して育てる。
- ⑤ 学校，保護者，地域が一体となり(学校運営協議会)，「チーム松陽」として取り組むことを通して育てる。

3 取組の重点

(1) 学力向上に向けたプロジェクトの推進

- ◎校内研究を推進し，松陽の児童の実態に即した授業づくりを行う。
 - *児童の国語力を高めるために，国語科の授業研究を進める。
 - *すべての授業のユニバーサルデザイン化を推進し，授業改善に努める。
- ◎基礎・基本の定着をはかり，確かな学力をつけるための学習指導の充実を図る。
 - *基礎・基本タイムの取組や読書タイム，松陽漢字検定等の充実を図る。
 - *学習相談や課外学習の充実を図る。
- ◎松陽教育講座や松陽若葉会の充実を図り，若年教員の教育力の向上を図る。
 - *学級経営や授業実践について校内で学ぶ機会を設定し，日々の教育実践に生かす。
- ◎学年の段階を踏まえた家庭学習の仕方を示し，自学自習の力を育てる家庭学習の充実を図る
 - *家庭学習マニュアル，家庭学習ノートを作成し，児童の学習意欲を高める。
 - *家庭学習の意義や内容について家庭との共通理解を図り，学校と家庭が連携した取組を進める。

(2) すべての児童の自己実現につながる人権教育の充実

- ◎人権尊重の基盤となる信頼関係を構築し，よりよい人間関係を形成する集団活動を推進する。
 - *教育相談等の取組を通して，教師と児童との信頼関係を深めたり，児童理解を図ったりする。
 - *道徳の時間と特別活動と関連を図ったり，家庭や地域と連携したりして，児童の道徳性を育む道徳教育を推進する。
- ◎児童の将来を見据え，人権を尊重される存在に育てる取組の充実を図る。
 - *児童一人一人の学習課題に的確に対応し，指導内容や方法を工夫して授業改善に努める。
 - *コスモス学級やわくわく教室での教育を効果的に活用し，児童の自立促進を図る。
 - *保護者と連携して多様な児童の困りを的確に受け止め，手立てを工夫して，適切に支援する。
 - *「つばさ園」との連携に努め，「つばさ連絡会」「学習相談」等の効果的な活用と充実を図る。
- ◎人権を尊重する社会の担い手を育てる取組の工夫と充実を図り，行動化に結び付く力を育てる。
 - *男女平等教育，総合育成支援教育，同和教育，外国人教育における課題に対応した取組の充実を図る。
 - *いじめ，情報モラル等の児童に関わる今日的課題に対応した取組を進める。
 - *「なかよしの日」「人権朝会」等の取組や保護者や地域との連携を図る取組の充実を図る。
 - *C S Sを教育活動に効果的に活用する工夫と取組の充実を図る。

(3) 自己指導能力を高める生徒指導の推進

◎一人一人の子どもを大切にし、子ども理解を基盤にした指導の充実を図る。

＊児童の居場所づくりを進める観点から、教育相談の充実と効果的な活用を図る。

＊児童との信頼関係づくりの観点から、家庭訪問（児童館やつばさ園を含む）の効果的な活用を図る。

◎課題を明確にして目標を具体的活動につなげ、子ども・学級の変容に粘り強く働きかける実践活動を推進する。

＊学級活動(2)における「日常の生活や学習への適応」について、集団思考を生かした指導の充実を図り、自己目標の実現に向けた実践を進める。

＊規範意識の育成の観点から、「もの」や「約束やきまり」についての課題を自己の問題としてとらえ、問題解決につなげようとする意欲を育てる。

＊自己有用感や自己存在感を育てる観点から、当番活動や係活動、委員会活動などで担った役割を果たす活動を充実し、役割や責任をしっかりと果たす子どもを育てる指導を徹底する。

＊児童相互の絆づくりを進める観点から、学級活動や異年齢交流活動等を通して温かい人間関係を築く力を育てる指導を充実する。

◎気になる児童（配慮すべき児童・支援の必要な児童）を取り巻く支持的な学級集団を創造する。

＊学級会や実践活動において人間関係に関わるねらいを設定し、意図的・計画的な実践を重ねる。

＊集団のよさを実感できるような活動を意図的に仕組み、温かな人間関係を感じられるような「空気」をつくる。

(4) 地域力を生かす学校運営協議会の取組の推進

◎従来の取組を整理して発展的な充実を図る。

◎学校・家庭・地域が連携して、「チーム松陽」の取組を進める。

(5) 小中一貫・小小連携の取組（檜原中学校・檜原小学校・松陽小学校）

◎児童生徒の小中9ヵ年を見通した教育活動の充実と推進を図る。

4 その他

① 時間の設定と活用の工夫（帯タイム、5分間休憩など）

② 児童会活動としての「交流タイム」「児童朝会」「代表委員会」の取組（児童の自主的・実践的態度）

③ 放課後の学習相談の工夫（学力補充の取組）

④ 夏休みチャレンジ講座の工夫（松陽の特色ある取組）

⑤ 図書館教育の推進（図書室・コンピュータ室を効果的に活用した教育活動の構築）

⑥ 保護者、地域と共に育てる教育実践（保護者・地域ボランティア事業、放課後まなび教室など）

⑦ 協力指導体制の充実（少人数授業、TT、専科、交換授業など）